

令和4年度福岡市埋蔵文化財センター考古学講座

# 海と山

# がおりなす歴史

第2回 7月9日(土)

海辺と山裾の  
弥生時代史

神戸女子大学文学部 齋藤 瑞穂 氏

福岡市埋蔵文化財センター講座室  
13時30分〜15時00分 (13時00分受付・開場)  
※各回の定員、申込方法は、市政だよりと市ホームページでお知らせします。

- 感染症の拡大状況により、上記内容を変更する場合があります。
- ご来場の前に福岡市埋蔵文化財センターホームページをご確認ください。

埋蔵文化財センター  
ホームページ

「福岡市の文化財」  
Facebook

入場無料

主催 福岡市埋蔵文化財センター

〒812-0881 福岡市博多区井相田 2-1-94  
TEL: 092-571-2921 FAX: 092-571-2825  
電子メール: maibun-c.EPB@city.fukuoka.lg.jp

講座とリンクした企画展

令和4年5月17日～  
令和5年3月31日





# 海辺と山裾の弥生時代史

神戸女子大学文学部

齋藤 瑞穂

## 1. 弥生時代遺跡のある風景

<キーワード: 博多区板付遺跡, 博多区比恵・那珂遺跡群, 早良区古武高木遺跡>

## 2. 里の形成と分断の論理

<キーワード: 農業, 低緯度・中緯度, ムラの外, 管理, 「土地」>

## 3. 弥生時代の環境と貝塚の隆替

<キーワード: 「④の貝塚」, ヤマトシジミ(汽水)→カキ(干潟)→ハマグリ(砂底)>

## 4. 古墳が弥生時代を語り出す?

<キーワード: 群集墳, 太形蛤刃石斧, 玄武岩, 西区今山遺跡, 井堰, 青銅器生産>

## 5. 海と山がおりなす歴史

<キーワード: 魏志倭人伝, トレーダー, 枯渇性資源>

## 参考文献

- 朝岡俊也 2015「奴国の時代の土木考古学」『新・奴国展—ふくおか創世記—』福岡市博物館 180~185頁
- 朝岡俊也 2021「水利の技術と思想」『大宰府史跡指定100年と研究の歩み』九州国立博物館・福岡県立アジア文化交流センター 291~317頁
- 板倉有大 2020「縄文時代の海岸線」『新修福岡市史 資料編考古2—遺跡からみた福岡の歴史・東部編—』福岡市史編集委員会 120~121頁
- 小澤佳憲 2013「弥生時代の集落の変遷と社会」『新修福岡市史 特別編—自然と遺跡からみた福岡の歴史—』福岡市史編集委員会 163~183頁
- 小野映介 2014「グレート・ジャーニーの行方—低地居住の過去・現在・未来—」『自然と人間の環境史』海青社 31~58頁
- 久住猛雄 2010「弥生時代後期の福岡平野周辺における集落動態(1)—近年の研究動向の批判的検討から—」『市史研究 ふくおか』第5号 福岡市史編集委員会 102~87頁
- 久住猛雄 2018「最古の「都市」~福岡市比恵・那珂遺跡群~」『古墳時代における都市化の実証的比較研究—大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地—』大阪市博物館協会大阪文化財研究所 61~72頁
- 甲元真之 1983「海と山と里の文化」『えとのす』第22号 新日本教育図書 21~25頁
- 甲元真之 1992「海と山と里の形成」『考古学ジャーナル』No.344 ニュー・サイエンス社 2~9頁
- 齋藤瑞穂 2009「九州弥生時代貝塚の再検討」『平成21年度九州考古学会総会研究発表資料集』九州考古学会 11~20頁
- 齋藤瑞穂 2017「弥生時代研究の動向」『日本考古学協会年報』第68号 日本考古学協会 32~38頁
- 齋藤瑞穂 2018『弥生土器型式細別論』同成社
- 下條信行 2008『大陸系磨製石器論—下條信行先生石器論攷集—』下條信行先生石器論攷集刊行会
- 高谷好一 1992「太唐米に海域世界をみる」『海と列島文化』第10巻 小学館 379~406頁
- 高谷好一 1993「東南アジアの森と野と海」『東南アジア研究』第30巻第4号 京都大学東南アジア地域研究研究所 386~400頁
- 武末純一 1989「山のムラ, 海のムラ」『古代史復元』第4巻 講談社 106~112頁
- 武末純一 1989『弥生の村』山川出版社
- 田崎博之 1994「弥生文化と土地環境」『第四紀研究』第33巻第5号 第四紀研究会 303~315頁
- 田崎博之 2007「発掘調査データからみた砂堆と沖積低地の形成過程」『砂丘形成と寒冷化現象』熊本大学文学部 56~67頁
- 辻田淳一郎 2013「古墳時代」『新修福岡市史 特別編—自然と遺跡からみた福岡の歴史—』福岡市史編集委員会 144~147頁
- 福園美由紀(編) 2016『金武古墳群2—第8次調査報告—』福岡市教育委員会
- 森 貴教 2018『石器の生産・消費からみた弥生社会』九州大学出版会
- 山口讓治 2012「九州・沖縄(1)—古代以前—」『木の考古学—出土木製品用材データベース—』海青社 300~311頁
- 山崎純男 1991「九州の弥生時代貝塚」『考古学ジャーナル』No.336 ニュー・サイエンス社 27~33頁

## 要旨

玄界灘沿岸では、38の弥生時代貝塚が検出されている。形成年代を整理すると、縄文時代直後である弥生時代早期の貝塚は5遺跡5地点にすぎないのに対し、次の前期に18遺跡25地点に急増する。衰退するのではなく、むしろ発達しており、これらを縄文時代の生業の名残とは評価しえない。

貝塚は、前期後半の板付Ⅱ式期に急増し、その前後に限って内陸部でも形成される。そして、内陸部に形成された貝塚は、ヤマトシジミ（汽水種）→カキ（干潟群集種）の順に堆積していたり、カキ（干潟群集種）→ハマグリ（内湾砂底群集種）の順で堆積するなど、採貝した貝種に変化がみとめられる。

この①貝塚の急増、②内陸部での形成、③同一遺跡における貝種の変化は、海進による内海の拡大によって起こる。弥生時代前期後半に温暖化したことを、これは物語る。

弥生時代の大陸系磨製石器が混入した、古墳時代の群集墳がある。多くは㊦太型蛤刃石斧で、㊧玄武岩で作られており、㊨ことごとく破損品である。福岡市西区今山遺跡は弥生時代の石斧製作遺跡で、玄武岩を使った石斧が作られた。弥生時代前・中期の交に生産量が急拡大するといひ、集落の急増現象との関係で理解されることが多い。しかし演者の編年観では、そう急激に増加したようにみえない。

演者は、温暖化がピークを過ぎ、流量の減った河川から水を引く水利との関係を推測している。その意味で、海退と山への進出とは期を同じくする現象である。

もう一つに、金属器の生産開始との関連性を考える。金属加工に必要な木材量は、言うまでもなく対象金属の変態・融点に比例するが、鉄器のゆるやかな普及を想起すならば、今山遺跡における大規模石器生産の停止の背景も、別に理由を捜した方がよい。むしろ木材の枯渇は原因の1つに挙がってこないだろうか？石斧出土古墳の多くで黒色土の堆積が乏しい事実は、大いにこの点を考えさせる。



第4図 玄界灘沿岸の弥生時代貝塚

第1表 玄界灘沿岸の弥生時代貝塚

No	遺跡名	海までの距離(km)	標高(m)	検出遺構	堆積状況	貝種		時期			
						性格	詳細	早	前	後	詳細
1	北九州市八幡西区黒ヶ畑	3	132	—	—	鹹水種	ハイガイ, サルボウなど		●		「中期後半主体」
2	遠賀郡芦屋町夏井ヶ浜貝塚	0.25	?	—	貝層形成	鹹水種	アワビ製貝庖丁	●			「夜臼式土器単純」
3	中間市岩瀬西町岩瀬貝塚	8.3	5	第2期工事時	貝層形成	鹹水種 ↓ 汽水種	カキ→シジミ		●		カキ層とシジミ層との間に中・後期の土器, そのほか前期の土器も採集されている
4	遠賀郡水巻町宮ノ下貝塚	7.9	?	—	—		ハマグリ, カキ, カワアイ, オキシジミ, アカガイ, タニシ, シジミ		●		「集落跡としては(中略)中期の宮ノ下貝塚」
5	遠賀郡遠賀町尾崎・天神	2.3	34	5次4号貯蔵穴	—	汽水種主体	シジミ主体, アワビ, ハマグリ		●		「前期末～中期初頭が主体」
				5次10号貯蔵穴	—	汽水種	シジミ				土器は出土していない
				5次50号貯蔵穴	—	汽水種主体	シジミ主体, ハマグリ, カキ		●		「前期末～中期初頭が主体」
6	遠賀郡遠賀町慶ノ浦	2.9	10	3号貯蔵穴	ブロック	半汽水種	「シジミ貝類」: 1.7kg, 「その他(ハマグリ・カキ, サザエ, マキ貝)」: 1.0kg		●		「前期末」
				13号貯蔵穴	ブロック	汽水種主体	「シジミ貝類」: 7.15kg, 「その他(ハマグリ・カキ, サザエ, マキ貝)」: 0.25kg		●		「前期後半」
				14号貯蔵穴	ブロック	汽水種主体	「シジミ貝類」: 32kg, 「その他(ハマグリ・カキ, サザエ, マキ貝)」: 1.1kg		●		「前期後半」
				15号貯蔵穴	ブロック	汽水種主体	「シジミ貝類」: 35kg, 「その他(ハマグリ・カキ, サザエ, マキ貝)」: 8.2kg		●		「前期後半」
				16号貯蔵穴	ブロック	半汽水種	「シジミ貝類」: 1.0kg, 「その他(ハマグリ・カキ, サザエ, マキ貝)」: 0.69kg		●		「前期後半」
7	遠賀郡遠賀町金丸	2.5	16	1号貯蔵穴	—	—	—		●		「逆L字状口縁の甕も含まれているので, 中期初頭」
8	遠賀郡遠賀町城ノ越貝塚	7.5	7.5	M区貝塚	貝層形成斜面堆積	汽水種主体 ↓ 鹹水種主体	①下部破砕貝層: ヤマトシジミ主体 ②混土貝層下部: ハマグリ, カキ, ハイガイ, サルボウ, シオフキ, サザエ, ウミナ, テングニシ, ヤマトシジミ ③混土貝層上部: ハマグリ, カキ, ハイガイ, サルボウ, ウミナ, エボウミナに少量のシジミ, タニシ ④上部破砕貝層: カキ主体, ハマグリ, ハイガイ, サルボウ, ウミナに少量のヤマトシジミ		●	●	①下部破砕貝層: 城ノ越Ⅱ式を主体として, IIIa式・I式を上下に交える ②混土貝層: 城ノ越Ⅱ式～Ⅲb式 ③上部破砕貝層: 城ノ越Ⅳa式
9	宗像市石丸石丸	11.3	28	3号貯蔵穴	ブロック	汽水種主体	シジミ, カワニナ, ザルガイ, ハマグリ, アワビ, サザエ		●		「壺は中期初頭のものが大部分を占め, 甕は前期末のものが多し」
10	福津市宮司浜宮司大ヒタイ	0.4	11	SU-02	ブロック	—	—		●		「名残Ⅲ期」(飛野 1991)=石丸遺跡3号貯蔵穴併行
11	古賀市鹿部鹿部東町貝塚	1.3	4	—	貝層形成斜面堆積	鹹水種主体	①下部貝層: マガキ(36.0%), カワニナ(18.7%), アサリ(15.2%), ナミノコガイなど ②上部貝層: マガキ(37.3%), アサリ(17.6%), ウミナ, ナミノコガイ, フトヘナタリなど		●		「板付Ⅱ式期に形成」
12	糟屋郡新宮町三代貝塚	2.7	10	—	貝層形成斜面堆積	純鹹	マガキ, アサリ, ウミナ, アワビ		●	●	「板付Ⅰ・Ⅱ, 須玖式」 「前期中頃～弥生時代中期にかけての貝塚」
13	糟屋郡新宮町夜白	2.6	10	第1号堅穴	貝層形成	鹹水種主体	カキ, オキシジミ, アサリ・ウミナが多い, ハマグリ, アカガイ, サザエ, アカニシ, テングニシ, クマノコガイ, フジノハナガイ, カワニナ, タニシ, ヒメエゾボラ?		●		「主として板付Ⅱ式土器が含まれていた」
				?	鯨骨製有段アワビおこし		●				
14	小郡市美鈴が丘一ノ口	23	44	3号土壌	少量	鹹水種主体	アサリ, マガキ, イボニシ, カワアイ, カニモリガイ, カラスガイ, ホソウミナ, オオタニシ, カワニナ		●		「前期末から中期初頭」
				59号土壌	ブロック	鹹水種主体	アワビ, マガキ, シオフキ, マツカサガイ, カワニナ, オオタニシなど		●		「前期末から中期初頭」
				434号土壌	ブロック	鹹水種主体	アワビ(加工品か), アサリ, カワニナ, オオタニシなど		●		「板付Ⅱa式から同Ⅱb式の時期」
15	福岡市博多区雀居	5	6	10次SK002	少量	鹹水種主体か	巻貝2種, アカニシ?, 二枚貝2種		●		「第Ⅲ面」
16	福岡市博多区板付	6.3	11	環状溝	ブロック	汽水種 鹹水種	ヤマトシジミ, カキ, アサリ		●		「板付Ⅱ式」
17	福岡市博多区比恵遺跡群	3.4	5	30次SU-012	ブロック	未詳	—		●		「板付Ⅱ式古～中段階」
18	福岡市城南区浄泉寺	5	25	40号Pit	貝層形成	鹹水種主体	アサリ(45.2%), マガキ(22.6%), ヒメタニシ, オオノガイ, スガイ, クロアワビ製貝庖丁		●		「板付Ⅱ-a式」に「新しい要素を含んだもの」
				47号Pit	ブロック	鹹水種主体	マガキ(42.1%), アサリ(36.8%), ヒメタニシ, カガミガイ, ウミナ		●		「板付Ⅱ-a式」
				52号Pit	ブロック	半淡半鹹	ヒメタニシ(50.0%), アサリ(38.7%), マガキ, イシガイ, イガイ, ハマグリ, バテイラ, アカニシ, カワニナ				土器は出土していない
				53号Pit	ブロック	半淡半鹹	ヒメタニシ(57.5%), アサリ(16.4%), カワアイ, マガキ, オキシジミ, オオノガイ		●		「亀ノ甲式を含む板付Ⅱ-b式であるが, 城ノ越式を一部含む」
19	福岡市早良区西新町	1.3	5	9次SX01	少量	鹹水種	カキ, アサリ		●		「中期後半～末」
20	福岡市西区野方中原	3.6	20	A溝	少量	淡水種	カワニナか			●	
21	福岡市西区長浜貝塚	0.2	5	A貝塚	小貝塚群集	鹹水種	マガキ(58.5%), ヘナタリ(17.9%), ウミナ, イガイ, スガイ, アサリ, ナミノコガイなど		●		「板付Ⅰ式土器を主体とし, 若干の夜臼式土器を共存する」
22	福岡市西区今津貝塚	0.06	5	—	貝層形成	鹹水種	「蛤少なからず」		●		「板付Ⅱ式土器」
23	福岡市西区今山	?	?	今山下	混土貝層	—	—		●		「第二系弥生式」
24	福岡市西区周船寺	3.5	11	13次SK001	骨or貝	鹹水種	—		●		「板付Ⅱa式」, もしくは「若干古くなり得る」

No	遺跡名	埋蔵の距離(km)	標高(m)	検出遺構	堆積状況	貝種		時期					
						性格	詳細	早	中	後	詳細		
25	糸島市志摩御床御床松原	0.3	5	13号土坑	—	純鹹	アサリ, アカニシ, オキシジミ, イガイ, クボガイなど		●		「中期後半」		
				16号土坑	—	純鹹	ツメタガイ, オキシジミ, アサリ, スガイ, サザエなど		●		「中期初頭」		
				18号土坑	—	純鹹	サザエ, ツメタガイなど		●		「中期後半」		
				28号土坑	多量	純鹹	フトヘナタリ(32.4%), クボガイ(20.1%), スガイ, カリガネエガイなど		●		「中期初頭」		
25	糸島市志摩御床御床松原	0.3	5	4号溝	多量	純鹹	オキシジミ(16.3%), アサリ(10.5%), サザエ, スガイ, ヘナタリ, ウミニナなど		●		「中期後半」		
				2次SK04	—	純鹹	サザエ		●		「前期～中期初頭」		
26	唐津市柏崎石蔵貝塚	5.1	10	九大調査	貝層形成	半汽半鹹	ヤマトシジミ(47.9%), ウミニナ(29.96%), ハマグリ(12.6%), フトヘナタリなど		●		「前後後半から末頃」		
				県調査	貝層形成	汽水種主体	ヤマトシジミ(67.1%), ウミニナ(21.4%), ヘナタリ(3.9%), ハマグリ		●		「板付Ⅱ式」		
27	唐津市宇木宇木汲田貝塚	5.8	7	Grid G-10	貝層形成	鹹水種主体	「個体数は少ないがマガキを主体とする」	●			「夜臼式土器単純の様相」		
				Grid E-1 3～6	貝層形成斜面堆積	鹹水種主体	①H6黒褐色D: マガキ(90.08%), ハマグリ, オキシジミ, ヤマトシジミなど ②I6黒褐色C(貝層): ハマグリ(49.08%), マガキ, カワニナなど		●		「上半部に板付Ⅱa式期の土器を含み, 下半部には板付Ⅰ式と夜臼式の土器を主体とする」		
28	唐津市宇木宇木鶴崎	5.8	7.5	—	—	鹹水種汽水種	カキ, ハマグリ, アカガイ, シオフキ, オキシジミ, マテガイ, サザエ, ヤマトシジミ		●		「夜臼式, 遠賀川式土器」		
29	唐津市菜畑菜畑	1.1	6	E I 1・3区	斜面堆積	鹹水種	—		●		「弥生時代前期初頭(夜臼: 板付Ⅰ式期)」		
30	唐津市千々賀千々賀	7.1	10	Grid. L-8	—	—	—		●		詳細は不明		
31	唐津市湊町雲透	0.7	62	SX-202	斜面堆積	鹹水種主体	「岩礫性小型巻貝が中心を占める」, その他アワビ, トコブシ, マツバガイ, サザエ, クボガイ, バテイラ, カワニナ, マガキ, アサリ, ハマグリ, カガミガイ		●		「全面から中期前葉から中期中葉までの須玖式土器を検出」		
							鯨骨製突起付アワビおこし		●				
32	唐津市呼子町小川島貝塚	0.05	7	試掘坑 A-D	貝層形成	鹹水種	D区第4層＝前期: カメノテ(36.2%), タマキガイ, マツバガイ, ムラサキインコ, イガイ, サザエ, クモノコガイ, アワビ D区第3層＝中期: カメノテ(23.1%), ムラサキインコ, イガイ, タマキガイ, マツバガイ, クモノコガイ, サザエ, レイシ, イボニシ, アワビ A-3区第2層＝中・後期: イガイ(28.8%), カメノテ, アオガイ, クモノコガイ, ムラサキインコ, アワビ・サザエの集積		●	●	●	「夜臼式」 「板付Ⅰ式」 「前後後半」 「中期初頭」 「中期中頃」 「後期終末」	
							C区	鯨骨製アワビおこし(無突起)		●			
							—	貝層形成	鹹水種	シオフキ, アサリ, ハマグリ, ザルガイ, バカガイ		●	
33	松浦市御厨町池田	0.3	15	B地点	貝層形成	鹹水種	マガキ, サザエ, イタヤガイ, マテガイ		●		「貝層内からは中期の甕形土器」		
				—	アワビおこし								
34	平戸市田平町里田原	1.2	17	第VI次 Pit4	—	鹹水種	ウニ, トコブシ, サザエ, ヨメカガサ, イシダタミ		●		「中期前葉」		
				—	鯨骨製アワビおこし(無突起)		●			「前後～中期初」			
35	老岐市芦部町原の辻	1.4	10	1951年調査	貝層形成?	鹹水種	マガキ, アワビ, サザエ, バイガイ, ツメタガイ, ウミニナ		●				
				特定調査区2号旧河道	—	鹹水種主体	ハマグリ, サザエ, マルタニシ		●		「後期～古墳前期」		
				9号土坑	—	鹹水種	アワビ		●		「前期末～中期中葉」		
				—	鯨骨製突起付アワビおこし		●	●		「前期末～中期初」, 「中期～後期」			
36	老岐市勝本町カラカミ貝塚	2	73	1952年第2地区	貝層形成	鹹水種	カキ, アワビ, サザエ, オキシジミ, イガイ, ウニ		●		「弥生式後期初頭」		
				1982年 W15区	ブロック	—	—		●		貝層上の3層: 「中期末～後期前葉」 貝層下の5層: 「前期末, 中期中頃の土器が出土」		
				東亜第1地点	貝層形成	鹹水種	ウミニナ		●		「須玖Ⅱ式新段階」		
				東亜第2地点	貝層形成	鹹水種	サザエ		●		「中期～後期」		
				1977年2011年 Tr. 7 (+環濠)	貝層形成	鹹水種主体	アワビ, マツバガイ, ツタノハガイ, ユキノカサガイ科, クボガイ, ヘソアキクボガイ, クモノコガイ, オオコシダカガンガラ, サザエ, スガイ, タツノコヘビガイ, ウミニナ, オニツノガイ, アツキクスズメ, アカニシオハグロガキ, イタボガキ, イタヤガイ, イガイ, フネガイ, ザルガイ, シジミガイ科, チョウセンハマグリ, ハマグリ, アサリ, ウニ		●		「高三階式～下大隈式」		
				第1地点 4b～c層	集中出土40点	鹹水種	アワビ		●		「後期前半を中心とする」		
				第1地点 5c層	2点	鹹水種	アワビ		●		「須玖Ⅱ式」		
				—	鯨骨製突起付アワビおこし		●			「中期～後期」			
				1977年調査	鯨骨製アワビおこし(無突起), 鯨骨製突起付アワビおこし								
				第1地点 SB2	鯨骨製アワビおこし(無突起)		●			「須玖Ⅱ式」			
				第1地点 5c層	鯨骨製アワビおこし(無突起)		●			「須玖Ⅱ式」			
				第1地点 第4層	鯨骨製突起付アワビおこし 鹿角製アワビおこし		●			「須玖Ⅱ式～下大隈式」			
37	対馬市豊玉町住吉平貝塚	0.03	10	A貝塚	斜面堆積	純鹹	スガイ(37.2%), サザエ(17.9%), オニアサリ, マガキ	●			「夜臼式土器のみを出土」		
				B貝塚	斜面堆積	純鹹	サザエ(35.5%), スガイ(22.2%), マガキ	●			「板付Ⅰ式土器を主体」		
38	対馬市峰町吉田貝塚	0.5	5	—	レンズ状堆積	純鹹?	「かきが最も多い」	●			「貝塚の主体をなすものは, 夜臼式土器である」		

第2表 弥生石器の出土古墳

No	遺跡名	遺構	標高(m)	出土石器	No	遺跡名	遺構	標高(m)	出土石器
1	福岡市西区広畑古墳群	不明	41	大型蛤刃石斧	7	福岡市西区鋤崎古墳群	5号墳	19	磨製石鏃
2	福岡市城南区七隈古墳群	第8号墳	30?	大型蛤刃石斧	8	福岡市博多区水町古墳	—	13	大型蛤刃石斧
3	福岡市西区丸隈山古墳	—	23	大型蛤刃石斧	9	福岡市西区飯氏二塚古墳	—	34	扁平片刃石斧, 柱状片刃石斧
4	福岡市西区重留古墳群	C-2号墳周辺	59	大型蛤刃石斧	10	福岡市西区浦江古墳群	1号墳	49	打製石斧(弥生か不明), 石庖丁, 砥石
5	福岡市西区広石南古墳群	1号墳	42	大型蛤刃石斧	11	福岡市西区夫婦塚古墳	—	69	大型蛤刃石斧か
		5号墳	33	磨製石剣			120	大型蛤刃石斧	
6	福岡市城南区梅林古墳	—	31	石庖丁	12	福岡市西区金武古墳群	調査区内	120	大型蛤刃石斧